

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 福岡県母子福祉協会

母子生活支援施設 室見寮

目 次

1. 令和3年度 事業報告

(1) 事業概況

(2) 参考資料

① 令和3年度 事業実績報告書

② 令和3年度 年間行事／会議・研修実績

1. 令和3年度 事業報告について

(1) 事業概況

① 事業活動

ア. 管理運営

(ア) 令和3年度は31世帯でスタートした。(定員40世帯)入所世帯は月平均36世帯で運営され、退所14世帯、入所25世帯で、平均入所率は90%であった。コロナ禍の中、DVや生活困窮についての相談が増加し、入所数の増加につながったと考える。また、入所者増加への取り組みとしては、福ふくプロジェクトにおいて福祉事務所に対してコロナ禍における相談内容等についてのアンケートを実施・分析した。

(イ) 入所世帯の半数強がDV被害世帯で母子ともに被虐待の経験を持ち、精神疾患や発達障がいを抱えている世帯も多い。世帯に合わせた細やかな支援が必要となり、入所開始より関係機関と密に連携しながら支援を行なった。

生活困窮世帯に対しては、福祉事務所と連携し、安定した生活を送りながら求職活動を支援した。また、資格取得によって、より安定した収入を得られるよう就職後も継続して支援した。

職員の資質向上の為に各種専門研修については、新型コロナウイルスの感染防止のために中止となる研修やWEB研修が多かったが、感染対策に留意しながら子どもの権利に関する施設内研修を実施することができた。

(ウ) 緊急一時保護事業については、令和3年度は3世帯4名(合計のべ日数52日間)で、福岡県内からの保護を実施した。新型コロナウイルスの感染リスクがあったため、多くの一時保護が福岡県女相内で行なわれ、委託数は前年度より減少した。

(エ) 第三者評価については、福岡県社会福祉士会による評価受審を計画していたが、新型コロナウイルスの感染症の影響により、翌年度に見送ることとなったため、職員による自己評価のみ実施した。

イ. 母子を対象とした支援について

(ア) 入所母子の生活の安定と自立促進を図る為、定期的に面談を行ない自立支援計画を立てた。寮内でのケース会議や外部の関係機関との会議を随時開催し、今後の支援について共通理解を深めた。

母親同士の交流を目的とした行事は新型コロナウイルス感染防止のため、飲食を伴わない行事を中心とし、親子掃除や遠足、クラブ体験などを実施した。

退所世帯に対し、年賀状や電話を利用してのアフターケアを实

施。年賀状の返信や来訪する世帯もあった。

- (イ) 施設内保育では、縦割り編成で家庭的な雰囲気大切にすることで、一人ひとりの子どもと向き合い、不安・甘え・要求を受け止め、信頼関係の構築に努めた。

年齢に応じた活動（園外散歩、マラソン、野菜作り等）や遊びを提供し、子ども達がのびのびと楽しめる保育を実践した。

自立面接に立会い、育児のアドバイスをすることで家庭との繋がりが深まり、母親と共に子どもの育ちを喜び合うことができた。

コロナ禍ではおもちゃ・家具の消毒、室内の換気に留意し室内のレイアウトを変える等、密にならないよう配慮した。

- (ウ) 給食に関しては母親からの食事相談に応じたり、毎月の給食便りを配布。食育活動として、そら豆の鞘むきやとうもろこしの皮むきなどの給食室のお手伝いやクッキング、日本の伝統行事や行事食に触れることで、食に対する意識の向上に努めることができた。またアレルギーのある児童へは、母親への食事指導に加え、給食提供時には細心の注意を払い、除去食を提供した。毎月の職員会議では給食会議を実施し、情報の共有を図った。お誕生会では、プレートランチを提供し、食事を楽しんで食べる雰囲気を作った。

- (エ) 学童保育では、少年指導員が見守るなか、室内外において子ども同士が関わる機会を提供し、社会性を身につけることが出来るよう支援した。地域の児童が遊びに来訪した際は、新型コロナウイルスへの配慮を最大限に行いながら、遊び場を提供した。

例年、登校喚起として朝食会を実施していたが、残食率が高く、今年度は昼食会へと変更した。馴染みのあるうどんの具をバイキング形式にすると大変好評だった。また、緊急事態宣言の解除後に、退所者招待行事を実施した。密にならないよう配慮し、検温や消毒作業を実施しながら、アフターケアの推進を図った。

学習面では、小学生には下校後の学習支援、中高生には英語塾を開講し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図った。母親との自立面談時には、子どもとの面談を実施し、子どもの想いや考えを聞き取り、場合によっては代弁するように努めた。

小中学校との連絡会を概ね隔月に1度実施し、各世帯の様子や学校での様子を共有しながら学童児の健全育成に努めた。

- (オ) 心理面は、昨年と同じく学習室で適応できなくなった児童に、心理室内で気持ちを吐露して貰った（その児童は寮外の友人との関係ができ、心理士との時間は次第に消失していった）。

また、自閉症スペクトラム症の児童との面接では、当初、児童が

一人遊びを常に実施し、児童の世界に心理士が入ることができなかったが、面接終盤では2人で遊ぶことができるようになった。

さらに、不登校となった中高生で抑うつ感の非常に高い児童に対して、以前から母親に通院や心理面接を提案してはいたが、本児の同意が得られず実施できないでいた。その児童と今年度は、心理面接の実施と精神科の通院、どちらも実施できた。また、精神科の予約の際、心理士が代理で予約をとる等サポートを行った。児童は次第に笑えるようになり、心理士と一緒に散歩もできるようになった（令和4年度から通信制の高校に通うことが決定した）。

母親に対しては、職場での不応がある母親に、精神科の通院と、休職の手続きが進むように支援した。また、全体的に精神分析のエッセンスを取り入れた心理面接を実施し、より相談者の深部に入る面接を心がけた。一方で、侵襲的な面接を好まない相談者については、傾聴に重きをおいた面接を心がけた。

② 施設・設備の改善について

ア. 外構・南棟・北棟

(ア) 片開き門扉取替工事

室見寮の正門の経年劣化に伴い、既存の門扉の取り替え工事を実施するとともに、乳幼児の飛び出し防止を目的としたストッパーを設置した。

イ. 南棟（寮舎）

(ア) 寮舎 中央玄関扉フロアヒンジ交換工事

寮舎中央玄関の扉にあるフロアヒンジが経年劣化により錆付き、扉の開閉が安全に行われなくなったため、新たなフロアヒンジに取り替える工事を実施した。

ウ. 北棟（管理棟）

(ア) 管理棟 階段・1階床シート貼替他工事

管理棟内の階段及び1階床シートを全面貼り替える工事を実施し、管理棟の環境整備に努めた。

(イ) 給食室 ガラス交換工事

給食室のガラス窓の一部が室内機器の熱により破損していたため、耐熱ガラスに取り替える工事を実施した。

(2) 参考資料

① 令和3年度事業実績報告書

② 年間行事／会議・研修実績（法人本部を含む）